RS ウイルス感染症予防接種（母子免疫ワクチン）について

R８年３月現在

RS ウイルス感染症は、RS ウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。乳児期に感染した場合、より重症化しやすいと言われており、特に生後６か月以内に感染した場合、細気管支炎など重症化することがあります。

妊娠中に RS ウイルスワクチンを接種することで、RS ウイルスに対する抗体が胎盤を通じてお母さんの体からお腹の赤ちゃんへ移行し、生まれた直後から RS ウイルスの感染や重症化を予防します。

＜ワクチン接種について＞

令和８年４月１日より、妊婦さん向けのRSウイルス感染症予防接種(母子免疫ワクチン)が定期接種となる予定です。接種のための予診票は、３月下旬に個人通知します。

＜開始予定日＞

令和８年４月１日

（令和８年３月 31 日までに接種される方は、定期接種の対象にはなりません。）

＜対象者＞

接種日時点で、妊娠 28 週 0 日から妊娠 36 週 6 日までの方

※接種後 14 日以内に出生した場合、乳児における免疫の有効性は確立していません。

＜料金＞

無料

＜回数＞

妊娠ごとに１回

＜接種時に必要な物＞

母子健康手帳、マイナ保険証、予診票

＜接種方法＞

医療機関に直接予約をしてください。

※指定医療機関の一覧は、予診票と一緒に送付します。

※なお、里帰り出産などで指定医療機関以外での接種を希望される方は、接種前に手続きが必要になります。愛知県内であれば広域予防接種制度、愛知県外であれば償還払い制度となります。詳細は、蟹江町こども家庭課へご連絡ください。

【問い合わせ先】蟹江町こども家庭課（蟹江町保健センター２階）

電話　0567-94-5666